看護かごしま

Nursing Kagoshima

http://k-kango.jp

2017.Summer Vol.168

公益財団法人 慈愛会
今村総合病院

※表紙写真を募集しています。募集要綱を最後のページに載せていますので、ご覧ください。

◆平成 29 年度　鹿児島県看護協会通常総会報告 …… 2
◆新役員紹介 …… 3
◆平成 29 年度　鹿児島県看護協会長表彰 …… 3
◆平成 29 年度　新任・再任役員ごあいさつ …… 4
◆平成 29 年度　鹿児島県看護協会名誉会員 …… 5
◆平成 29 年度　日本看護協会長表彰・日本看護協会総会報告 …… 6
◆ほっとニュース …… 8
◆職場紹介 …… 10
◆広報委員会報告　パワフル age 委員会研修会報告 …… 11
◆訪問看護における看護人材活用試行事業に参加して …… 12
◆熊本県・鹿児島県で看護職人材交流 …… 14
◆平成 29 年度入会案内 …… 16
◆地区だより …… 17
◆ナースセンターだより …… 21
◆理事会報告 …… 24

平成 29 年度鹿児島県看護協会会員数

保健師	382 人
助産師	363 人
看護師	9,581 人
准看護師	701 人
合計	11,027 人

平成 29 年 7 月 1 日現在

平成 29 年度　公益社団法人　鹿児島県看護協会通常総会報告

平成 29 年５月 20 日、公益社団法人鹿児島県看護協会通常総会が出席者500名、委任状提出者8,950名、計9,450名のもと、かごしま県民交流センターにて開催された。

式典では、物故会員への黙祷の後、田畑会長より挨拶があり、地域包括ケアシステムの構築が進む中、医療の専門家である看護職員の確保と看護の質向上は喫緊の課題であり、本会も積極的に取り組みを考えていきたい。28年度から会員情報管理システムが稼働した。今後、迅速で丁寧な対応に心掛けていくので、理解と協力を賜りたい。本年度の重点事項１．地域包括ケアシステムの推進、２．看護職が働きやすい環境づくり、３．看護の質向上及び看護職の役割拡大、４．会員サービスの強化と会員増の４点と、その他、新規の取り組みとして、若手看護職の就業支援、看護教員の研修支援、訪問看護事業者の実態調査、訪問看護理解・連携促進事業、子ども子育て世代包括支援ケア推進事業、認知症対策・連携体制整備事業など計画したことを話された。

県保健福祉部長藤本徳昭氏、県医師会長池田琢哉氏より祝辞を頂いた。来賓鹿児島県看護連盟会長小原圭子氏の紹介、祝電披露に引き続き鹿児島県看護協会長表彰が行われ、20 年以上協会並びに保健医療福祉分野で活躍貢献されている 30 名の方に賞状と記念品が授与され、受賞者を代表して、木山淳子氏（公益社団法人出水郡医師会広域医療センター）より謝辞が述べられた。

審議に入り、

議題第１号、「平成 28 年度事業報告」は、理事会報告、事業報告、各職能委員会報告、地区活動については代表して鹿児島地区より口頭報告があった。常任委員会報告、特別委員会報告（認定看護管理者教育運営委員会、学会委員会、訪問看護研修検討委員会、看護の日・週間行事実行委員会、医療事故調査支援委員会、パワフル age 委員会、研究倫理委員会、ワーク・ライフ・バランス推進・評価委員会、助産師出向支援事業協議会、性教育推進事業支援委員会）、推薦委員会報告、選挙管理委員会報告、各地区活動報告、日本看護協会理事会報告、九州地区法人会員会報告と特別報告の熊本地震に対する支援状況報告は口頭と文書でなされた。

議題第２号（第一号議案）「平成 28 年度収支決算報告及び監査報告」が承認された。

議題第３号（第二号議案）「公益社団法人鹿児島県看護協会名誉会員」として糸岡幹子さんが承認された。

議題第４号（第三号議案）「平成 29 年度改選役員及び推薦委員の選出」では、役員、保健師職能理事１名、看護師職能Ⅰ理事１名、看護師職能Ⅱ理事１名、地区理事４名、監事２名が改選され承認された。また、推薦委員７名が改選承認された。

議題第５号（第四号議案）「平成 30 年度日本看護協会代議員・予備代議員の選出」では、代議員 12 名と予備代議員 12 名が選出された。

議題第６号「平成 29 年度事業計画書の内容報告」に関して、平成 29 年度の重点課題として、１．地域包括ケアシステムの推進、２．看護職が働きやすい環境づくりの推進、３．看護の質向上及び看護職の役割拡大の推進、４．会員サービスの強化と会員増の４点と、県内７地区と連携して取り組む具体的な事業計画として、①看護教育及び学会等学術振興に関する事業、②看護職の労働環境の改善及び就業促進による人々の健康及び福祉の増進に関する事業、③看護に係る調査及び研究並びに看護業務及び看護制度の改善への提言に関する事業、④地域ケアサービスの実施及び促進等による県民の健康及び福祉の増進に関する事業、⑤日本看護協会との相互協力及び連携に関する事業、⑥その他本会の目的を達成するために必要な事業が述べられた。

出席者から、専任教員（看護教員）養成講習会を積極的に行ってほしいとの要望が出され、これに対して、看護師等養成校及び臨床現場の管理者の理解を得て進めていきたいとの執行部の回答であった。

議題第７号「平成 29 年度収支予算」が承認された。

最後に、各地区から推薦を受けた平成 29 年度選挙管理委員 11 名が議長による任命を受け、平成 29 年５月 21 日から平成 30 年度総会当日までの任期が確認され閉会となった。

文責　下仮屋　道子

平成 29 年度　公益社団法人　鹿児島県看護協会役員名簿

役　職	氏　名	勤　務　先
会　長	田　畑　千穂子	公益社団法人 鹿児島県看護協会
副　会　長	下仮屋　道　子	社会医療法人恒心会　恒心会おぐら病院
副　会　長	中　重　敬　子	公益財団法人慈愛会
専　務　理　事	原　田　ケイ子	公益社団法人 鹿児島県看護協会
常　任　理　事	内　司　啓　子	公益社団法人 鹿児島県看護協会
保健師職能理事	西　原　洋　子	鹿児島県北薩地域振興局保健福祉環境部健康企画課
助産師職能理事	園　田　良　子	鹿児島市立病院
看護師職能Ⅰ理事	小　玉　博　子	公益社団法人鹿児島共済会　南風病院
看護師職能Ⅱ理事	宇治野　由美子	医療法人クオラ　介護老人保健施設クオリエ
准看護師理事	中　島　久美子	公益財団法人慈愛会 地域活動支援センターひだまり

役　職	氏　名	勤　務　先
鹿児島地区理事	山　本　むつみ	鹿児島市立病院
南薩地区理事	中　村　昭　子	鹿児島県立薩南病院
川薩地区理事	谷　川　智　子	医療法人クオラ　クオラリハビリテーション病院
出水地区理事	本　蔵　信　子	出水総合医療センター
姶良伊佐地区理事	鮫　島　明　子	独立行政法人国立病院機構　南九州病院
大隅地区理事	伊比禮　まり子	公益社団法人肝属郡医師会肝属郡医師会立病院
大島地区理事	榊　愛　香	鹿児島県立大島病院
監　事	財　部　マチ子	社会医療法人博愛会　人間ドックウェルライフ
監　事	古　川　康　郎	古川公認会計士事務所

平成 29 年度　公益社団法人　鹿児島県看護協会長表彰

氏　名	所　属
今古川　則　子	県民健康プラザ鹿屋医療センター
植ノ原　博　美	社会福祉法人恩賜財団　済生会鹿児島病院
後　迫　章　子	鹿児島厚生連病院
奥　多喜子	公益社団法人 鹿児島市医師会病院
片　平　智　子	独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター
上荒磯　まさ子	公益社団法人鹿児島共済会　南風病院
喜名田　紀久代	医療法人社団春陽会　春陽会中央病院
木　山　淳　子	公益社団法人　出水郡医師会広域医療センター
久保田　祥　子	公益社団法人薩摩郡医師会　薩摩郡医師会病院
税　所　惠津子	医療法人仁心会 松下病院
芝　田　由美子	鹿児島県立大島病院
竹ノ下　時　子	鹿児島市立病院
谷　口　まゆみ	鹿児島市立病院
寺　師　敬　子	鹿児島県立大島病院
中　重　敬　子	公益財団法人慈愛会

氏　名	所　属
中　薗　明　子	公益財団法人慈愛会　谷山病院
中　村　昭　子	鹿児島県立薩南病院
南　波　千恵美	鹿児島大学病院
八　田　明　美	鹿児島赤十字病院
東　すみ子	個人会員
福　山　惠　子	姶良市役所
藤　田　浩　美	医療法人栄和会　寺田病院
松　相　惠　子	県民健康プラザ鹿屋医療センター
松　永　絹　子	鹿児島県保健福祉部障害福祉課
丸　田　静　代	国立療養所 星塚敬愛園
南　良　子	鹿児島大学病院
森　園　京　子	鹿児島医療生活協同組合　中山生協クリニック
山　口　敬　子	鹿児島県立北薩病院
山　田　七生美	医療法人クオラ　クオラリハビリテーション病院
吉　留　厚　子	鹿児島大学医学部保健学科

（所属は平成29年3月末現在）

平成 29 年度　鹿児島県看護協会新任・再任役員のごあいさつ

保健師職能理事
西原　洋子

この度、二期目の保健師職能理事をお引き受けすることになりました。
少子化の進行や超高齢化社会が到来し、厚生労働省は、地域包括ケアシステムの概念を進化させ、子ども・高齢者・障がい者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高めあうことができる地域共生社会という概念を提案しました。この実現に向け､他職種と協働しながら地域に責任を持った保健活動ができるよう取り組んで参りますのでよろしくお願いいたします。

看護師職能I理事
小玉　博子

この度、職能委員 1 期 2 年目で、大役を仰せつかりました。こころもとない心情ですが、前委員長松原さんをはじめたくさんの諸先輩方の支援を頂きながら、役割を果たしていきたいと考えています。平成 29 年度は職能Ⅱ委員会と共に、2025 年に向けての地域包括ケアシステムを支えていく看護師の実践能力向上のためのクリニカルラダー活用に向けて、実態調査から始めたいと考えています。何とぞ、ご協力よろしくお願いいたします。

看護師職能Ⅱ理事
宇治野　由美子

この度、看護師職能Ⅱの理事をお引き受けすることになりました。現在医療介護を取り巻く社会は、病棟再編、医療を内包した施設類型、医療を外から提供する「住まい」併存類型（看護付き高齢者住宅）と、地域医療構想のもと在宅を中心とした地域包括ケアシステムの構築に突き進んでおります。その中で看護の質向上に向け、看護師職能Ⅰ(病院領域）と連携を図り事業活動を進めていきたいと思います。宜しくお願い致します。

南薩地区理事
中村　昭子

この度、南薩地区理事をお引き受けすることになりました。６市にわたる地域であり、責任の重さを感じています。
地域における医療、看護、介護を取り巻く環境が変化する中で、地域住民のニーズを把握すると共に、地域の他施設や多職種との連携を推進し、看護協会活動に取り組んで参りたいと思います。皆様のご協力とご支援をどうぞよろしくお願い致します。

川薩地区理事
谷川　智子

この度、川薩地区地区長に就任することになりました。
超高齢社会を目前に、医療・看護への期待は、ますます大きくなってきています。そして、切れ目のない医療・介護の実現には、看護職のネットワークが重要な機能を果たすことを確信しております。地域住民のニーズも多様化している中、会員一人ひとりがそのニーズに応え、専門職としての力を発揮できますように、地区理事として微力ながら貢献していきたいと思っております。どうぞ、宜しくお願いいたします。

姶良伊佐地区理事
鮫島　明子

この度、姶良伊佐地区長という大役をお引き受けすることになりました。地域医療構想が示されこれから医療と看護の現場ではより専門性が求められてきます。
看護師の質向上をめざし、地域のネットワークを強みとして地区活動に貢献できるように微力ではありますが頑張りたいと思います。皆様のご協力とご支援を宜しくお願い致します。

大島地区理事
榊　　愛香

この度、大島地区長をお引き受けすることになり、責任の重さを感じております。
大島地区は現在、人口減少や高齢化、医師看護師不足など多くの課題を抱えています。その中で地域住民の皆さまが、安心して自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられることができるよう、看護職間の連携や質の向上、地域支援に会員の皆様と共に取り組んで参りたいと思います。どうぞご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

監事
財部マチ子

監事として３期目をお引き受けることになりました。誰も経験したことのない超高齢社会の到来は、看護職への期待がますます高まっています。鹿児島県の現状を踏まえ、会員の方々の日常に役立つ活動とは何かを基軸にして、微力ですがこの２年間努力していきたいと思います。生涯看護協会員をめざしています。よろしくお願いいたします。

監事
古川　康郎

このたび、監事に再任させていただきました。
公認会計士として 35 年が過ぎ、現在は監査法人での監査業務と個人事務所で指導業務等を行っております。
医療関係、公益法人及び公的機関の業務も経験してきた関係で看護職業務についての知識も多少あるつもりですが、会員の皆様にさらに多くの現場実務を教えていただきながら、現況を踏まえた監事業務の遂行と僅かでも協会への貢献ができればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

平成 29 年度　鹿児島県看護協会名誉会員

平成 29 年度通常総会において、糸岡幹子さんが名誉会員として承認され、田畑会長より名誉会員証の授与と花束が贈呈されました。

平成 29 年度　日本看護協会長表彰

平成 29 年度日本看護協会通常総会におきまして、原田ゆう子さん（左）、下仮屋道子さん（右）の両名が日本看護協会長表彰を受けられました。
おめでとうございます。

平成 29 年度　日本看護協会総会に参加して

平成29年度日本看護協会総会に参加して

整形外科松元病院
敷根　富貴子

6月7日　千葉市幕張メッセにおいて、日本看護協会通常総会が開催されました。全国から集まった750名の代議員の一人として、初めて参加させていただきました。

本年度の重点政策は

1.看護基礎教育制度改革の推進（教育の4年化、准看養成停止へ）
2.地域包括ケアにおける看護提供体制の構築
3.看護職の労働環境整備の推進
4.看護職の役割拡大の推進と人材育成　でこれらの4本柱についての具体策の説明がなされました。

質疑では、教育現場の実情、実習受け入れ側の実情、改善されない労働環境、准看護師養成の立場から等、また、80代の戦争体験名誉会員から自衛官の医療行為拡大への危惧など活発な意見交換の場となりました。少子超高齢化社会を迎え、地域包括ケアシステムづくりが進められている中、看護職として何が出来るのか、勤務先内の限局した看護のみでなく、居住地域内で、医療圏内で、県単位で広くまさに包括的にみて取り組んでいくことの重要性を感じました。協会活動を通してさらなる新しいネットワークづくりや、医療、介護、福祉、行政、住民との顔がみえ安心して暮らしていける町づくりへの関わりの必要も感じました。

意見の中で、病院看護師は訪問看護の現状を知らなさ過ぎるという叱責の声もありました。退院支援や地域連携に取り組んではいますが、確かにまだまだ病院看護師は退院で一段落という空気があります。退院で終わりでなく、地域でその人がその人らしく暮らしていけるように様々な部門と連携し退院後を知ることが大切です。病院看護師の在宅ケア教育や、退院後の訪問指導実施などを充実させていかねばならないと思いました。

また今年は、役員改選の年でもあり、代表として選挙も行いました。新たに、福井トシ子新会長が選出され新体制となりました。坂本すが会長は退任のあいさつで、「ワクワクした看護を死ぬまで続けていきましょう」とおっしゃいました。日本の現状から看護師職能に求められているものの内容や方向性を確認するとともに、たくさんのパワーをもらえた総会参加でした。貴重な機会を与えていただきありがとうございました。

平成29年度　全国保健師交流集会に参加して

保健師職能委員長
西原　洋子

6月8日に全国保健師交流集会が、427名の参加のもと開催されました。中板委員長の冒頭の挨拶では、保健師を取り巻く環境が大きく変化し、保健師への期待が高まっている一方、地域力の脆弱化や多様化、複雑化、深刻化する中で、保健師活動への厳しい視線もある。地域包括ケアシステムから地域共生社会へと国の施策も進み、保健・医療・福祉等を縦割りから丸ごとへとシフトチェンジが求められ、住民と共に活動し地域づくりを予防から支えていくことが地域に責任を持つ保健師活動であるという言葉が印象に残りました。

28年度の活動は、「保健師のキャリア形成推進に向けた取組」「統括保健師の配置推進に向けた取組」「地域包括ケアシステムの構築・推進に関する取組」「保健師のネットワーク強化に関する取組」の報告がされ、29年度の重点事業として、「包括的母子保健推進における看護機能の強化」「健康寿命延伸に向けた地域連携推進」「地域包括ケアシステム構築に対応する保健師のキャリアラダー策定・活用の支援」に取り組んでいくと説明がありました。

特別講演は、「自分ごと、まちごと、人はつながり地域で生きていく」支援する活動から、皆で支え合える地域へ～愛媛県南宇和郡（なんぐん）愛南町より～と題して、NPO法人ハートinハートなんぐん市場理事（精神科医）長野敏宏氏より、昭和40年代からはじまった精神障害者支援や脳卒中登録事業、健康づくりなど住民と協働した活動を基盤として、平成10年頃からは、環境問題や就労支援に、障害を持った方と共に取組はじめ、産業興しをめざすNPO法人を立ち上げ、今では未来に向けた新しい農産物の開発や水産業、観光業、飲食業にも取り組むようになり、10年間で15億円近い経済が動くようになったこと、健康など様々な課題を抱えた方々も地域産業の担い手になり、誇りや健康を取り戻している。また、このような地域づくりを基盤として、精神科医療も20年かけて149床の病床を、地域住民や関係機関の一定のコンセンサスを得て、病床を閉鎖し、駆けつけ支援も行う24時間365日の医療体制を構築できた事等の講演がありました。講師の話で、ご本人の権利を守ることは、地域生活のサポートであり、その位置で、つながっている人とどう守るかであり、生活を離れて治療に行くことではない。また、本当に地域の今を知っているか、未来への種まきをやっているかということが印象に深く残った。

午後のシンポジウムは、「もう一度地区活動～PDCAサイクルにもとづいた戦略的展開～」のテーマで、県看護協会職能委員長、市町村、産業保健分野、退職後の保健師からの発表がありました。

それぞれの立場で、地域に責任をもつ保健師活動について課題や今後の方向性について話題提供があり、今後の活動への参考になりました。フロアーとの意見交換は、医師会との関係性や地区担当制の保健師活動の効率化について行われました。

集会参加への貴重な機会をいただいたこと、また、シンポジストとして、28年度に取り組んだ「子どもと子育て世代包括ケア推進」についての日看協のモデル事業について報告をする機会を得たことに感謝しつつ、今年度の重点施策・事業計画に取り組めるよう保健師職能活動に活かしていきたいと思います。

平成29年度　全国助産師交流集会に参加して

助産師職能委員長
園田　良子

6月8日、478名の参加のもと全国助産師交流集会が開催されました。平成29年度重点政策・重点事業、助産師職能委員会活動方針等について説明の中で、CLoCMiP®レベルⅢの認証申請では、全国で約1万人を超える「アドバンス助産師」が誕生したことより、引き続きCLoCMiP®導入や総合的評価の活用等の支援と院内助産・助産外来の開設を推進することが示されました。また、活動目標に妊娠期から子育て期までの切れ目のない看護・助産機能の強化、小児在宅移行支援能力強化のための人材育成研修、災害時における周産期ネットワーク構築が示されました。ウイメンズヘルスケアに関する実態調査では、最も多く実施されていたのは、妊娠から育児において支援を必要とする母親・家族への支援、最も実施されていなかったのは、多様な性への支援でしたが、全てのケアに助産師が関わっていることが報告されました。午後より「日本の周産期医療体制における院内助産・助産外来の役割」のテーマでシンポジウムが開催されました。社会医療法人愛仁会千船病院の院内助産・助産外来に必要な助産実践能力について興味深く聞きました。鹿児島県は198名のアドバンス助産師が誕生し、就業している助産師の3人に1人が認証を受けていることになります。アドバンス助産師の実践能力を発揮できる体制づくりが喫緊の課題であることを再認識しました。

平成29年度　全国看護師交流会Ⅰに参加して

医療法人　青仁会　池田病院
堂地　由紀子

6月8日、全国看護師交流集会Ⅰが開催されました。平成28年度活動報告、「看護師長が担うべき役割および必要な支援・教育」「外来の看護職による在宅療養支援の取り組み」それらの意見集約や課題発見。平成29年度の活動方針について報告がありました。特別講演では落語家、立川志の春氏の「挑戦し続ける勇気～これからの時代に必要な自らの決断力」について講演されました。そして情報提供では「特定行為研修制度を活用した看護師の活動」と特定行為研修を修了された方の発表がありました。その中で研修修了するに至るまでには周囲の方々の多大なサポートがあったことや、今後は地域や他施設との信頼を得られる活動、先を見据えた予防等、活動の幅を広げていきたいと挑戦する直向さがとても印象的でした。また、福井トシ子日本看護協会会長による基調講演「これからの医療提供体制と『場を限定せずに提供する看護』のあり方」が行なわれ、あらゆる場での看護、また看護職の量の確保はもとより質を上げること等、会長の力強い言葉や熱意を感じました。

シンポジウムでは「病院のとびらを開けて～Hop、Step、Nursing～」というテーマで3人の方が発表されました。坂本すが前会長が2015年に公表された「看護の将来ビジョン」に向けて様々な取り組みがなされ、看護を提供する場が拡大するということ、病院看護を地域看護に変えていく地域包括の要は在宅医療の推進でもあることを発表されていました。利用者の場を限定せずに提供する看護、どこでも看護を提供できる自分達に変わっていくということが求められており、在宅医療を推進するために病院看護はますます重要であり看護師の果たす役割を再認識しました。また日本看護協会は看護職に関する多くの事業を進めています。それらの事業に現場の状況を反映させるため、職能委員会の機能である意見集約・課題発見は重要な役割を担っていると実感しました。看護職が地域の未来を築いていけるよう取り組んでいきたいと思います。

平成29年度　全国看護師交流集会Ⅱ（介護・福祉関係施設・在宅等領域）に参加して

看護師職能Ⅱ委員
原口　悦江

6月8日、全国看護師交流集会Ⅱが開催されました。平成29年度の活動方針より、「2025年に向けて地域包括ケアシステムと効率的な医療に提供体制が具体的に進んでいくことになる。これらの状況に鑑みると今後は、医療のニーズを併せ持つ重度要介護者が施設を含め在宅で療養する状況が増加する。私たち看護職には最後まで住み慣れたところで自立した療養生活とその人生を全うすることへの支援がより一層求められる」とのことでした。看護は医療も生活も看ることが出来る唯一の職業であること、急性期の経験知がある、病気、健康状態、そして暮らしのアセスメントが出来る、生活を支える介護職と協働できるといった力のある看護職が「ケアをつないでいく」よう実践し、その積み重ねが地域包括ケアシステムの構築につながることが再認識できました。

特別講演では「お一人様の最期」というテーマで社会学者・東京大学名誉教授、NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長である「上野千鶴子」先生の講演を拝聴できました。独居高齢者の生活満足度の方が独居高齢者より高い、独居高齢者で子供がある人とない人では満足度は変わらない、同居家族が多いと満足度も高いがお悩み度も高いなどデータを基にした内容にとても興味深く聴講できました。在宅ひとり死の3条件として1自己決定2司令塔3システム（多職種）が揃っていることで考えさせられる内容でした。午後のシンポジウムでは、看護小規模多機能型居宅介護支援事業、訪問看護ステーションでの取り組みや特別養護老人ホーム吹上苑での看とりなど地域でその人らしく豊かな最期を支援する看護職の活動を実際学ぶことが出来ました。また、ICTを利用した死亡診断のガイドラインにいてものガイドラインについても事件性の判断が必要であるため法医学等に関する教育を受けた看護職の必要性を理解することができました。介護施設、在宅で働く看護職の専門性を上げていくことの重要性を痛感しました。今回、このような機会を頂き感謝いたします。

ほっとニュース

1 平成 29 年度看護職の WLB 推進ワークショップ『第 5 回カンゴサウルス賞』を受賞しました

29 年 5 月 18 日（木）アンモニーソルーナ表参道にて『第 5 回カンゴサウルス賞』授賞式が行われました。26 年度から 3 年間継続して取り組んだ努力と成果を称え，今後の更なる発展を期待して対象施設は全国で 100 施設。鹿児島県からは 3 施設が表彰を受けました。

受賞施設・・・①鹿児島医療生活協同組合　鹿児島生協病院
②医療法人青仁会　池田病院
③医療法人玉水会　玉水会病院

受賞されました施設の皆様！おめでとうございます！！
今後も WLB の取り組みを継続していきましょう！！

2 平成 29 年度　看護の日記念式典

5 月 12 日（金）に鹿児島県医師会館で看護の日記念式典を開催しました。本年は看護学生を中心に看護師、一般県民の方が 415 名というこれまでの式典の中で最も多くの方の参加があった式典でした。式典に先立ち鹿児島市の下伊敷保育園元園長の畑添千歳さんと自ら作曲した保育士の下原三幸さんの歌と演奏、さらにコカリナ奏者の唐見由香さんによる心が癒されるミニコンサートがありました。

式典では長年にわたり看護業務に従事されました以下の 10 名の方々に「看護業務功労者県知事表彰」が授与され、代表して赤崎えり子さんが謝辞を述べられました。その後、川原芳子さんが保健師になられたきっかけや、さつま町の保健師として行政での公衆衛生看護の体験が語られました。その後、富山県の「このゆびとーまれ」を開設され平成 27 年度ナイチンゲール記章を受けられた惣万佳代子さんに「私の看護の原点～だれもが地域でともにくらせるために～」と題してユーモアたっぷりの中にこれまでの体験と看護の本質について講演していただきました。アンケートの中に「ミニコンサート、体験発表、講演と全てに感動した。参加できて良かった。県知事表彰を受けられるような看護師になりたい。」等多数の声がよせられていました。

平成 29 年度　看護業務功労者県知事表彰

赤　﨑　えり子	曽　於　市
有　村　優　子	鹿児島市
袈　谷　明　子	鹿児島市
川　原　芳　子	さつま町
神　田　安　代	薩摩川内市
長　田　いつよ	鹿児島市
松　下　育　子	鹿児島市
丸　目　まり子	伊　佐　市
燃　脇　美枝子	西之表市
山　下　みち子	鹿児島市

3 まちの保健室

平成 29 年 5 月 27 日（土）にイオン鹿児島鴨池店で「まちの保健室」を開催しました。血圧測定コーナー（血圧、血管年齢、骨密度）、相談コーナー（お薬、たばこ、栄養）、乳がんセルフチェック、プチナース体験、BLS 講習、貯筋運動と今年は新たな試みとして、体組成測定を行いました。参加して下さった方には、アートバルーンをプレゼントし喜んで頂きました。来場者数延べ人数 2,044 人でした。

4 平成 29 年度　鹿児島県総合防災訓練　報告

災害支援ナース（独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター）
木之下　誠

5 月 21 日（日）に鹿児島県総合防災訓練が西之表市で開催されました。今回の訓練は、南海トラフ地震と豪雨による複合災害を想定し、医療従事者と地域の保健師が協力しながら、トリアージや被災者への健康相談の流れの確認等を行いました。

私は熊本地震で医療救護班として参加した時、災害の場面を目の当たりにし、また避難所生活を経験しました。災害訓練に参加して感じたことは、平時から災害について考え、学ぶ機会を作っていく必要があるということです。人は、危機感を持ち続けて生きていくことはできないといわれており、時間の経過とともに地震の記憶も薄れていきます。しかし近い将来、南海トラフ地震が発生すると予測されており、普段から災害への意識を持つことが何より大切なのではないかと思います。

鹿児島県は、離島人口及び離島面積が全国で第 1 位という有数の離島県です。今回の訓練を通して離島独自の具体的な対策も含めた災害への体制作りに活かしていきたいと思います。

5 「性教育研修会」のお知らせ

性教育推進事業支援委員会では、性教育に関心のある方を対象に「性教育研修会」を開催します。ぜひご参加ください。

日時：平成 29 年 8 月 26 日（土）13：00 ～ 16：00
場所：看護研修会館　３階大研修室
テーマ：「小中学校現場教師が語る性教育の現状」
講師：二川政文先生（広木小学校）
**　　窪田聡美先生（北指宿中学校）**
受講料：会員 1000 円、非会員 2000 円、学生 500 円
申込〆切：8 月 10 日（木）

職場紹介

公益財団法人 慈愛会 今村総合病院

今村総合病院　看護部長
久徳　美鈴

1．今村総合病院オープン

1984 年に血液・腎臓内科 76 床で開設された今村病院分院は、30 数年の間に 25 診療科・293 床に拡大し、救急医療を主体とする地域医療に貢献できる病院を目指してきました。

この度、更なる救急医療の充実と高度専門医療の充実を目指して、新病棟の建設に至りました。6 月 1 日に公益財団法人慈愛会今村総合病院(350 床)に名称変更し､8 月 1 日には「産科･婦人科･小児科」が加わり、28 診療科 376 床の総合病院となります。

2．新病棟の設備の特徴

新病棟は、救急医療において、屋上にヘリポートを備え、ドクターヘリの受入が可能となります。

また、がん診療に於いては、手術、化学療法に加え放射線治療が可能となり、県内初の高精度放射線治療装置（トモセラピー）を導入しました。手術室は 6 室体制となり、今後のロボット手術やハイブリッド手術等の導入も可能なハードを整備しました。また、中央材料室には、PC 管理による高精度な滅菌工程管理「T-DOC トレーサビリティシステム」を導入しました。

病棟は、「光と緑」をテーマに、患者様が安心できる優しい環境づくりとともに、スタッフにとって機能的で働きやすい環境づくりを考えて造られました。建物内部は外光を拡散しやすく、清潔感のある“白”を基調としており、壁には慈愛会の 80 年の歴史を感じさせる地層をボーダーデザインで表しています。

病棟は、スタッフステーションがオープンスペースとなっており、スタッフステーションから全病室を見渡せる患者様の「みまもり」に重点をおいた快適な療養環境となっています。

3．新病棟開設にあたっての取り組み

業務運営が円滑に行えるようにするために、平成 25 年 12 月に 34 のプロジェクトチームを結成し、多くの議論を重ねてきました。

看護部では、新病棟建設を変革のチャンスと捉え、「環境が変わり、看護師の動きも変わる」というコンセプトのもと、事前に看護師の動線調査を行い、PNS 体制＋セル看護提供方式を導入しました。ハードのオープンなスタッフステーションとソフトのセル看護方式は、患者にとっても看護師にとっても、安心・安全で効率性に優れた体制となります。新病院では、しっかりとこの看護体制を根付かせていきたいと考えています。

また、病室およびスタッフステーションのモデルルームを仮設し、広さ・光など患者の療養環境と看護職員の働きやすい環境であるか確認し合いました。特に、夜勤を行う看護職員の目に優しく疲労を感じにくい照明にこだわり、スタッフの癒しの場となる休憩室は、緑と開放感のある窓・バルコニーを取り入れて造りました。働く看護職員を大事にして頂きました。

さらに、新病棟への移転を機に、組織的な改善活動として、５ S（整理・整頓・清掃・清潔・躾）活動を強化しております。看護部は、副看護師長を中心に、「いつでも・どこでも、どの部署に行っても整理整頓された環境でスマートに行動できる。」ことをテーマに基準づくりをしています。特にこの５ S 活動の『躾』は、組織が定めたルールを全員が守っているということが大事です TQM 活動の成果として注目していきたいところです。

4．今後のビジョン

当院は「医療の原点は慈愛にあり」という法人理念の下、「患者様から見て日本一の病院」をモットーにして、地域住民のニーズに応えられる病院を目指しています。それを実現するために看護部では、「人々が健やかに生活を送ることができるよう一人一人のパーソナリティを大切にして相手の心に届く慈愛の看護を実践する」ことを理念としています。

新しく生まれ変わった病院で、これまで以上に、地域の皆様の想いに応えられるようにチーム一丸となって努力してまいります。

みなさま、新病院をぜひ見学にいらしてください。

Hospital Information

病床数	350 床 （一般 274 床、回復 36 床、精神 40 床）
職員数	851 名（平成 29 年 4 月 1 日現在）

広報委員会　報告　～今村総合病院の見学を終えて～

今回、平成 29 年 6 月 13 日（火）に本協会業務執行理事 3 名と広報委員 5 名で新しくオープンした今村総合病院を見学しました。新棟移転の際は、外来診療を休診することなく取り組めたとのことで、綿密な計画のもとに進行されたことが分かりました。

病棟、HCU、ER、手術室、管理棟の見学を行いました。ヘリポートも新設されており、離島を多く抱える鹿児島県の中核である施設であると認識しました。

また、管理棟には各医局と看護部等の一同の方の連携が図れるように同室で棚等も顔が見える高さ・配置も工夫してありました。病棟のナースステーションも同様に目線を遮るものがなく、開放感がありました。病院入口側の窓を大きくとっておりナースステーションからの観察もでき、患者・家族が声をかけやすく、見守られているという患者の安心感にも繋がっていると思われました。

看護師の休憩室には他病棟のスタッフとのコミュニケーションをとりやすい構造となっているとともに、大きな開放感のある窓が光を十分に取り込んでいて、リフレッシュできる空間となっていました。

５ Ｓ 活動を推進しているとの看護部長の説明があり、移転間もない時期でしたが、整理整頓されていました。医療現場においての５ Ｓ は安全や感染の観点からも大事なことであり、施設の規模は異なっても積極的に取り組みたい活動であると再確認しました。

今回の見学を終え、新しい医療状況にも触れることができました。よりよい看護を行う為に情報交換・情報共有を行いながら連携を図っていきたいと感じました。

パワフル age 委員会　研修会報告

ねらい『ゆとりあるセカンドライフのためのこれからの自分自身の生き方を考える機会にする』

6 月 10 日（土）「豊かな老後をめざして」をテーマに公益財団法人生命保険文化センター専任講師の山口良司先生を講師に迎えて研修会を開催しました。

90 分と限られた『時間』の中で『生きがい』『健康』『お金：経済力』についてのパワフルな講義に、これからの生き方について、多大な示唆を頂きました。

生きがいについては働いてきた時間以上の時間がある。元気で楽しく過ごすために、健康寿命を延ばしましょう！　趣味やボランティア・地域貢献など「生きがい」を探しましょう！　～と。

案内は「豊かな老後を過ごすために～」であったが、参加者 27 名の 56％が 40 歳代までと多く、50 歳代 25％、60 歳代 19％。テーマに興味があり、自ら参加の方が 80％であった。

アンケートからは①豊かな老後を過ごすには今の職場で元気に働き続けたいと思えるくらい元気をもらえる研修であった。（30 歳代）　②これからのことをもっと具体的に考える機会になる。具体的でとても良かった。（60 歳代）　③とても興味深いテーマ。又、聞きたい。（60 歳代）

④まだ先のことと思っていたけど、老後のことについてちゃんと考えようと思った。（30 歳代）

⑤解らないことがたくさんあるが、今から少しずつ理解していくことの大切さを学ぶ。有意義な素敵な2時間を過ごせた。今からどう生きていくかをきちんと考えようと思う。（30 歳代）など。

「しあわせは自分のこころが決める」何が幸福であるかは人の価値観で違うが、自分の生き方を考える時間になりました。今のライフを大切にしながら、そして、これからを見すえて、幸せに楽しく元気に過ごせたらと思います。

訪問看護における看護人材活用試行事業に参加して（出向者）

～訪問看護を学んで～

公益財団法人昭和会 今給黎総合病院
退院調整看護師　大重　智子

日本は少子高齢化問題を抱えており、前例のない超高齢化社会となり医療提供の在り方を見直す必要に迫られています。このような中、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしができる社会を目指す医療・介護を地域が連携して取り組む「地域包括システムの構築・推進」を進めています。

今回、日本看護協会では、病院の看護師が地域の訪問看護ステーションに一定期間出向し、訪問看護・在宅療養を学ぶことで院内の看護ケアや退院調整機能の底上げに繋がり、一方訪問看護ステーションにとっては、人材確保の一助という目的で「訪問看護における看護人材活用試行事業」が実施されました。

私はこれまで勤務していた病棟で、退院後の生活が心配なケースや早期退院支援がスムーズに実施されていないのではないかと考えていました。今回、看護管理者から本事業への声がかけられ訪問看護を学び在宅療養支援のスキルを習得し患者・家族が満足する看護及び退院支援・調整へ繋げたいという思いから参加しました。

平成 28 年 10 月から３か月間、「生協訪問看護ステーションたにやま」に出向し、訪問看護の実際を経験させて頂きました。訪問看護師が患者や家族の思いを大切にし、その人らしく在宅療養生活が送れるように支援されていました。実際私も２か月目から単独訪問し、家族の前でケアしアセスメントすることはとても緊張感がありましたが、毎日達成感もありました。これまでの病棟勤務時の私には到底自宅での生活が無理と思われるケースもあり、私自身が「医療･看護の継続」が必要な方の「在宅のイメージ」が出来ていなかったことを痛感させられました。普段は病院内の看護師として参加していた退院前カンファレンスや担当者会議に訪問看護師として参加し、在宅療養を支える多職種連携やサービスの役割も学びました。例えば手すりの設置方法や浴室の椅子や踏み台など様々な介護用品を工夫し実際に活用する場面を見ることで、在宅療養の可能性を実感しました。また、訪問看護を学ぶ機会と様々な指導を頂き、共に働くことでとても刺激も受けました。訪問看護・在宅利用者と触れ合えたことで看護の楽しさを再確認することができ、この出会いを連携に繋げていきたいと思います。

今回の出向後、配置転換で退院調整看護師となりました。急性期病院においては在院日数の短縮化に伴い患者が限られた期間に適切な治療を受け、退院後も安定した療養生活が送られるように早期支援が必要です。私は退院調整看護師として病棟看護師が患者の退院後の生活をイメージして関われるよう、院内看護師研修で今回の事業報告会を３回実施するとともに病棟カンファレンスに入り意図的に働きかけ、患者に対し生活者という視点で関われるよう指導し看護の質を上げていきたいと考えています。

訪問看護における看護人材活用試行事業に参加して（出向先）

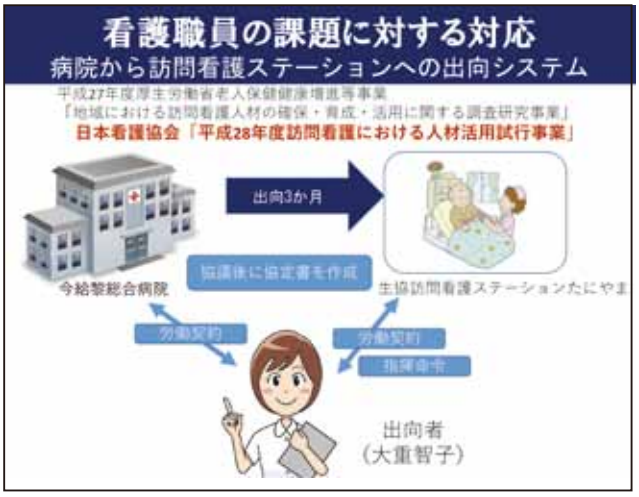
～病院からの出向看護師を受け入れて～

生協訪問看護ステーションたにやま
所長　横道　郁代

生協訪問看護ステーションたにやまは、鹿児島市の南部に位置し、サテライト事業所（1ヶ所）と共に鹿児島市内南部を中心に訪問看護を展開しています。近隣に総合病院鹿児島生協病院（センター病院）があり、機能強化型訪問看護ステーションとして人工呼吸器使用者・癌末期・難病・小児と幅広く受け入れ、医療依存度の高い方が多いのが特徴です。

病院看護師の受け入れについて

当施設内では、今までも新卒看護師研修や 3 年目研修の中で受け入れておりましたが、法人外の看護師を受け入れたことはなく、どのレベルで教育していけばよいのか戸惑いがありました。また、出向という立場でありますが、当事業所の一員として訪問看護を提供することになるため、安全に業務が遂行できるようなシステムの整備は必須となります。



事業の評価

本事業を理解し、準備するまでの期間が短期間だった事と実施期間が 3 カ月と限られたことで、非常に集中した取り組みができました。また、事業に参加することによって病院内の退院支援・調整の状況が良く分かり訪問看護ステーションが地域で果たす役割も再認識しました。病院と訪問看護ステーションがそれぞれ目的を示し相互理解のもとに事業を進めることでお互いにメリットのある事業が実施できました。

取り組みの成果と苦労した点

今回の事業を受け入れる目的として、①マニュアルを整備し、病院における退院支援に効果的に関わる方法を基準化する、②出向期間中は、マンパワー支援として活用する、としました。取り組みの成果としては①同行訪問を実施する中で看護技術や業務手順を見直す機会となった、②出向看護師が 1ヶ月目の後半から単独訪問が可能になり、新規利用者の受け入れ拡大や他の看護師の業務にゆとりができ、業務整備につながった、③法人外の看護師を受け入れることで、ステーション内が活性化した、等あげられます。また、苦労した点はなかったですが、工夫した事として①準備の段階で事業の内容を職員全員が理解し、職場環境を整えたこと、②出向者とコミュニケーションを密にとり、研修が楽しく進められるようにした事、③訪問看護を実践するうえでの疑問や問題は日々解決できるように助言・指導したことです。

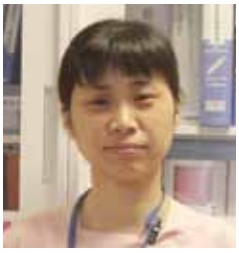
今後の課題と取り組み

出向者の退院支援が効果的にできるための在宅療養支援のスキルを学び習得する過程で、訪問看護師としてもっと病院に出向くことの必要性を感じました。今後は、早い時期で病院看護師と共に退院支援に関わり、安心して在宅生活に移行できるようなシステムを構築していきたいと思います。

熊本県・鹿児島県で看護職人材交流

平成 28 年 4 月におきました熊本地震をきっかけとして、現在、熊本県と鹿児島県で看護職の人材交流が行われております。

そこで、今回は熊本市民病院より鹿児島市立病院へ来られた 2 名の方へご自身の体験をご紹介いただきます。



「熊本地震を受けて今思うこと」

熊本市民病院
助産師　田上　美保

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震を振り返ると「想定外」の連続でした。「前震」「本震」という呼び方も初めてのことで、本震は「ドーン」と下から突き上げる感じと、激しい横揺れが続き、隣に寝ていた 2 人の子どもに覆い被さることしかできませんでした。携帯電話の地震警報の音にも子どもはおびえ、物の散乱した家の中から必死で車に避難したことを思い出します。

勤務先であった熊本市民病院は天井や壁の崩落、給水施設などが被害を受け、入院患者 310 名の方が一晩で県内外へ搬送されました。私はその当時産婦人科外来に勤務していましたが、のちに総合周産期母子医療センターを休止することになり、年間 600 人を超える妊産婦、新生児の受け入れができなくなりました。今回の熊本地震では県内の医療施設の半数以上が建物被害を受けていると報道され、医療機関の耐震化の遅れが浮き彫りになったと言えます。

病院機能が止まったことで職員は避難所管理や、復興関係の行政職等の仕事をしておりましたが、現在はもともとの機能を縮小した外来と、NICU、GCU および一般病床 24 床の病棟しかないため平成 31 年の新病院開院までスキルの維持、向上目的で約 200 名の職員が九州、沖縄に研修派遣という形で日々学びを深めています。

私は故郷でもあり、総合母子医療センターを担っている鹿児島市立病院を希望し、昨年の 8 月から産科病棟で研修をさせていただいております。今まで経験したことがないPNSを導入しており、わからないことをいつでも相談できたことは慣れない仕事を遂行する上でとても助かりました。また、お互いの持っている知識を共有し、学びを深められる点は質の高い看護を提供する上でとても大事なことであると感じています。

自宅も被災し、仮設暮らしを始め 2 人の子ども達を主人や義母に託し単身赴任しなければならない状況に、赴任した当初子ども達は精神的に落ち着かず、私自身も先が見えない漠然とした不安に襲われ、涙が出ることも正直ありました。しかし職員の皆さんが暖かく迎えてくださり、仕事と家庭の両立が図れるよう配慮していただき、恵まれた環境で仕事ができることに心から感謝しております。

カンファレンスの風景

最後に災害は時が経てば風化してしまうのも事実です。でも災害はいつ起こるかわかりません。「想定外」に備えて今一度、家庭や職場での災害対策を見直す時なのではないでしょうか。

「熊本地震を通して」

熊本市民病院
看護師　中村　憂美

熊本市民病院のメンバーと

熊本は平成 28 年 4 月 14 日、16 日に、2 回に渡る震度 7 の地震に見舞われました。私は本震時、新生児内科病棟で勤務をしていました。建物倒壊の恐れがあったため、当時勤務していた約 20 名のスタッフで入院患児 38 名を避難させました。

この当時を振り返ると、前震があったからこそ入院患児それぞれのトリアージ、避難経路や避難時の準備物品などの再確認、各々のスタッフがアクションカードを持ち勤務に当たっていたため、約 1 時間で避難させることに繋がったと思います。しかし、誰もが始めての経験で一人一人不安や恐怖を抱えながらも、決してそのことを言葉にすることなく、ただ入院患児の生命を守ることだけを考えながら必死に避難しました。県内外から救急隊や DMAT 派遣、鹿児島市立病院からは救急車やドクターヘリ等での搬送など多くの支援をいただき、無事全員の入院患児を他施設へ搬送することができました。

そして地震の影響で病院が機能しなくなり新病院が建設するまでの約 3 年間、スキルの維持･向上、スムーズな開院に向けて、総合周産期母子医療センターのある鹿児島市立病院で平成 28 年 8 月から研修させて頂いています。

最初は、システムや手順、ルールの違いに戸惑いがありました。環境が変わると、これまで簡単に出来ていた業務であっても、今までのようにスムーズに出来ないことがありました。順応するために積極的にスタッフとのコミュニケーションを図りました。鹿児島市立病院の看護部を始め、新生児室スタッフが市立病院の一スタッフとして指導・教育をして頂いたことで業務に慣れ、安全なケアができるようになりました。

震災がなければ体験することのなかった他施設での長期研修は、今後の看護師人生にとってとても貴重な体験であったと思います。

鹿児島県では母子保健制度が充実し行政との連携が図れており、新生児の病状や家庭環境に応じて支援ができました。その他に、鹿児島市立病院での徹底したリスク管理システムや医師との合同勉強会の開催など、個々のスキルアップに向けた取り組みや体制の在り方を学ぶことができました。また、各施設での災害訓練は強化されつつあり、市立病院でも同様に取り組んでいます。震災の体験を情報提供することで、より訓練が現実的になっているように感じます。

今回研修を受け入れて頂いた事に深く感謝致します。人と人とのネットワークを大切にし、自施設の新生児ケアの質向上に活かし、これからの新生児看護に繋げていきたいと思います。

勤務風景

平成29年度　入会受付中です!!

○ 会費について

継続・再加入　→　会費　12,000 円
（鹿児島県看護協会会費 7,000 円 + 日本看護協会会費 5,000 円）

新規・他県からの異動（鹿児島県での入会が初めての方）
→　会費　20,000 円（上記 12,000 円 + 入会金 8,000 円）

○ 入会書類の送付先

【送付先】私書箱　㊦206-8790
日本郵便株式会社　多摩郵便局　私書箱第 21 号
公益社団法人日本看護協会・都道府県看護協会　会員登録事務局　宛

※送付される場合は、必ず送付状を付けてお送りください。
（個人会員につきましては送付状は必要ございません。送付状は鹿児島県看護協会のホームページに掲載しております⇒）

○ 会員情報の変更

入会手続き後に、勤務先変更・退職・自宅住所の変更・改姓などがございましたら、会員専用マイページ 会員専用ページ キャリナース から申請いただくか、会員異動・変更届の提出もしくは鹿児島県看護協会にご連絡をいただきますようお願いします。

※会員異動・変更届の様式は、鹿児島県看護協会のホームページに掲載しております。

○ 会員専用マイページ 会員専用ページ キャリナース

日本看護協会もしくは鹿児島県看護協会のホームページの 会員専用ページ キャリナース からお入りいただき、マイページ登録をお願いします。マイページ登録には免許番号、会員番号、メールアドレスが必要です。　https://kaiin.nurse.or.jp/members/JNG000101

会員専用ページ キャリナース のサービスについて

1. キャリナースでは次のサービスを利用できます。

TOP	所属の都道府県看護協会・日本看護協会からのお知らせが表示されます。
会員情報	氏名(改姓)、住所、電話番号、勤務先などの会員基本情報が変更できます。
会費情報	会費納入状況の確認や領収書の発行ができます。また、口座振替の場合は、口座情報の変更も可能です。
履歴情報	会員履歴（勤務先、就労職種などの履歴）や活動履歴（表彰履歴、役員歴、委員歴など）が参照できます。参照できる活動履歴は、所属する都道府県看護協会によって異なる可能性があります。2018 年度より、研修の受講履歴も閲覧できるようになる予定です。
電子会員証	電子会員証を表示します。都道府県看護協会と日本看護協会の会員番号、入会状況の確認を行うことができます。
資料室	認定看護師教育課程の入試問題や日本看護学会抄録集、調査研究報告、機関紙「協会ニュース」などの閲覧、文献検索ができます。
▶操作説明	キャリナースの操作説明書がダウンロードできます。
▶よくある質問	よくある質問が参照できます。

ご不明な点や用紙の不足などございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。
☎099-256-8081
鹿児島県看護協会
会員管理担当　まで

地区だより

鹿児島地区

鹿児島地区地区長
山本むつみ

鹿児島地区長2年目を迎えました。日本看護協会通常総会には代議員として、鹿児島県看護協会通常総会には地区理事として、鹿児島地区集会には地区長として参加し、やっと本会のめざす一連のビジョンが見えてきました。昨年度の経験を活かしつつ、会員の皆様のご指導とご協力をいただきながら、本年度も精いっぱい務めてまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、平成29年度の地区集会は、6月10日（土）に、会員の皆様の多数の出席のもと執り行われました。今年度の活動目標は、「1. 少子高齢多死社会に対応する地域包括ケアシステム実現のために必要な研修を企画し、看護職の知識・技術・意識の向上を図る。2. 地域住民の健康保持・増進に貢献する。3. 看護協会活動を広く地域にアピールし、入会を促進する。」を掲げ、さまざまな事業計画を立てております。今年度は、新しい取り組みとして、看護管理者の草の根的交流会を計画しております。その他、研修会、まちの保健室などの事業を通して、地域住民とのふれあい、看護職同士の連携を強化していきたいと考えております。ぜひ、未会員の皆様にもお声をかけていただき、積極的にご参加いただきますようお願いいたします。

■平成 29 年度　役員

役員	氏名	所属
地区長	山本 むつみ	鹿児島市立病院
副地区長	徳永 弘恵	鹿児島厚生連病院
副地区長	宮崎 美千代	南風病院
書記	中村 章子	今給黎総合病院
会計	上原 真知子	鹿児島医療センター
屋久島ブロック長	宮ノ下 洋美	屋久島保健所
種子島ブロック長	上妻 智子	種子島医療センター
種子島会計	吉野 政子	西之表保健所
教育委員長	宮内 幸子	今村病院分院
地域ケアサービス委員長	前園 裕子	鹿児島市医師会病院
出版規約委員長	今村 晶子	済生会鹿児島病院

医療安全情報ネットワーク委員	
氏名	所属
図師 裕美	鹿児島市医師会病院
鳥越 千秋	鹿児島大学病院
千田 清美	今給黎総合病院

推薦委員	
氏名	所属
山之口 夏代	玉水会病院
蒲生 ふき子	岩尾病院
祝迫 喜美子	林内科胃腸科病院

教育委員	
氏名	所属
松元 利枝子	大勝病院
恒吉 里美	鹿児島大学病院
有島 みつる	相良病院
倉谷 京子（協）	鹿児島市吉田保健福祉課
新原 由佳（協）	産科・婦人科のぼり病院

地域ケアサービス委員	
氏名	所属
畠中 恵子	パールランド病院
鎌田 真早紀	鹿児島赤十字病院
中野 洋子	成人病院
東 直子	鹿児島医療技術専門学校
松山 朝美	日高病院
成 美智代	中央病院
穂満 奈見（協）	高田病院
宮之原ちどり（協）	三宅病院
中嶋 千文（協）	くさの記念病院

出版規約委員	
氏名	所属
前田 智子	谷山生協クリニック
木場 夏子	鮫島病院
池田 貴美子	タラ看護専門学校

南薩地区

南薩地区地区長　中村　昭子

この度、南薩地区地区長をお引き受けすることになりました。

南薩地域は人口減少、少子高齢化、高齢単身世帯の占める割合は他の医療圏よりも進んでいます。そのような状況の中、地域性や住民からの多様化するニューズに対応していくため、更なる医療と介護・福祉の連携の強化が必要です。また、地域包括ケアシステムの構築を進めるにあたり、在宅医療の需要に対応する看護提供体制の充実が求められています。

このように、看護職が果たす役割拡大とともに活躍する場が多様化する中で、専門職として、看護職には大きな期待が寄せられています。そこで、H29年度の活動目標に　1. 地区組織の充実と各施設間のネットワークづくりを行い、看護職の教育の充実と看護の質向上を目指す　2. 組織拡大と会員入会の促進　3. 地域住民の健康保持・増進に貢献できる　を揚げ、様々な事業を計画しました。これらを通し、地域が必要とする看護の提供ができるよう会員の皆様とともに地区活動に取り組んでいきたいと思います。会員の皆様のご協力とご支援をどうぞよろしくお願い致します。

■平成 29 年度　役員

役員	氏名	所属
地区長	中村　昭子	県立薩南病院
第1副地区長	畑中　勇二	訪問看護ステーションさくら
第2副地区長	國生　道代	国立病院機構指宿医療センター
書記	屋　和代	県立薩南病院
会計	井上　豊子	川辺生協病院
評議員	松永　真理亜	国立病院機構指宿医療センター
評議員	福満　順子	医療法人あさひ会　金子病院
評議員兼教育委員長	鮫島　麗子	南九州さくら病院
評議員兼地域ケアサービス委員長	濱田　薫	南さつま市立坊津病院

教育委員	
氏名	所属
鮫島　麗子	南九州さくら病院
田中　誠	いちき串木野市医師会立脳神経外科センター
福留　マサ子	さつま訪問看護ステーション
諏訪園　睦子	菊野病院
吉内　朝子	医療法人杏林会　丸田病院
松元　江利	枕崎市立病院
富松　さとみ	山川病院

地域ケアサービス委員	
氏名	所属
濱田　薫	南さつま市立坊津病院
日高　貴子	加世田保健所
伊藤　寛子	指宿保健所
濱田　里香	国立病院機構指宿医療センター
津久井　友子	花牟禮病院
奥園　志帆	伊集院保健所

医療安全ネットワーク委員	
古川　園恵	国立病院機構指宿医療センター
中村　昭子	県立薩南病院

川薩地区

川薩地区地区長　谷川　智子

この度、川薩地区地区長に就任することになりました。

地域医療構想が策定され、それぞれの地域の実情にあわせた医療提供体制の構築が推進される中、わたくしたち看護職が果たす役割の重要性を実感しております。

地域住民の皆様が住み慣れた地域で安全に安心して暮らせるよう「その人らしく生きる力」を引き出すには、看護職間はもちろん多職種・行政と協働していかねばなりません。川薩地区では平成27年度「都道府県看護協会地区支部における看護職連携構築モデル事業」に参加し、その後も活動を継続しております。今年度は、改めて連携の重要性を認識しながら、具体的なノウハウを学んでいただけるような企画を考えております。また、地域の方々には、広く看護専門職の社会的役割を理解していただき、より必要性を感じて頂けるよう「まちの保健室」等で地域貢献活動をいたします。

さて、看護職が働き続けられる職場づくりは永遠の課題です。看護職の労働環境の改善及び就業促進に関する事業として、平成21年度から当地区独自に開始した「かたらん会」は今年で9年目を迎えます。看護管理職のモチベーションは組織の活性化に繋がります。これまで同様、看護管理職のネットワークづくりと管理の学びを深める場を提供して参ります。

地区会員の皆様のニーズに応えていけますよう、役員一丸となって取り組んでいく所存です。どうぞご協力をお願いいたします。

■平成 29 年度　役員

役員	氏名	所属
地区長	谷川　智子	クオラリハビリテーション病院
副地区長	寺脇　佐代子	済生会川内病院
副地区長	柳田　千草	びっぐすまいる訪問看護ステーション
書記	中園　ゆきみ	クオラリハビリテーション病院
会計	久留須　加寿美	川内市医師会立市民病院
評議員	今別府　るみ子	市比野記念病院
評議員	久保田　祥子	薩摩郡医師会病院
評議員	永井野　輝代	済生会川内病院
評議員	満園　百恵	川内市医師会立市民病院

教育委員	
氏名	所属
永井野輝代(委員長)	済生会川内病院
木藤　恵	クオラリハビリテーション病院
福山　由可	川内看護専門学校
後藤　千草	薩摩郡医師会病院
濵田　寿美	鹿児島純心女子大学
田口　弥生	川内市医師会立市民病院

地域ケアサービス委員	
氏名	所属
満園　百恵(委員長)	川内市医師会立市民病院
真鍋　志保	済生会川内病院
比良　美智子	市比野記念病院
小園　洋子	薩摩郡医師会病院
上坊　奈生	北薩地域振興局　保健福祉環境部（川薩保健所）
谷山　るみ子	森園病院

医療安全情報ネットワーク委員	
氏名	所属
城ノ下　実千代	川内市医師会立市民病院
植田　みよ子	クオラリハビテーション病院

出水地区

出水地区地区長　本蔵　信子

平成28年度から、出水地区理事を務めさせて頂き今年度2年目になります。昨年は会員の方の御協力を頂き無事に事業を進めていくことができましたことに感謝申し上げます。

出水地区支部の地域は、県内でも高齢化率が高く家族問題、生活保障問題など医療・福祉の連携体制がとても大切な地域です。そのような地域の中、出水市、阿久根市、からなる地域の看護協会会員支部です。

看護職が専門職としての役割が果たせるよう、鹿児島県看護協会の取組みを理解して、地域の看護ケアの質の向上を目指した教育研修や医療安全情報ネットワーク事業、地域住民の健康相談などまちの保健室としての地域ケアサービス活動、市町村との連携する会議などへの協力員、など継続して取り組んでいきたいと思います。

2年目の地区理事として、昨年同様支部会員の皆様の支援をいただきながら役割を務めてまいりたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

■平成 29 年度　役員

役　　員	氏　名	所　　属
地　区　長	本　蔵　信　子	出水総合医療センター
第１副地区長	花　田　博　子	出水郡医師会広域医療センター
第２副地区長	岩　崎　真　理	出水郡医師会広域医療センター付属阿久根看護学校
書　　記	岩　下　　睦	出水総合医療センター
会　　計	山　野　ゆかり	出水総合医療センター

教育委員	
氏　名	所　　属
森　口　和　代	出水総合医療センター
松　島　美津子	出水郡医師会立第二病院
大　迫　香　澄	鹿児島県立野田女子高等学校
宗　像　勢津子	出水総合医療センター
若　松　都志子	出水中央高等学校
中　村　富士子	出水郡医師会広域医療センター

地域ケアサービス委員	
氏　名	所　　属
田　上　智　子	阿久根市役所健康増進課
宮　崎　多恵子	荘記念病院
山　崎　なるみ	出水総合医療センター
松　山　みつよ	野田診療所
今　村　静　香	出水保健センター
倉　津　菜緒美	出水郡医師会広域医療センター

医療安全ネットワーク委員	
氏　名	所　　属
戸　崎　明　美	出水総合医療センター
田　中　真奈美	出水郡医師会広域医療センター

平成 29 年度 全国代議員	
氏　名	所　　属
堀　口　真美子	出水郡医師会立第二病院
戸崎明美（予備）	出水総合医療センター

姶良・伊佐地区

姶良・伊佐地区地区長　鮫島　明子

この度、姶良伊佐地区長に就任することになりました。昨年は副地区長として協会の活動に参加させて頂きましたが、戸惑いの多い1年でした。今年度は看護協会から4つの重点事項が示されましたので、地域包括ケアシステムの構築や看護職員が働きやすい環境整備、姶良伊佐地区の看護の質向上に繋がるような教育研修の企画など計画していきたいと思います。

現在地域包括ケアが推進される中、訪問看護の重要性が益々高まり、入院中の患者も病院完結型から在宅への移行が期待され、病院で勤務する看護師も退院前訪問や退院後訪問など地域へ積極的に出向き在宅療養支援が必要となっています。また、姶良・伊佐地区は人口減少率が、県内の医療圏で2番目に低いなどの地域性からも子育て世代が生き生きと働き続けられるような体制作りや子育て支援等について取り組む必要があると思います。地域の実情に合わせた活動について、会員の皆様と共に検討していけたらと考えておりますので、ご協力とご支援を宜しくお願い致します。

■平成 29 年度　役員

役　　員	氏　名	所　　属
地　区　長	鮫　島　明　子	国立病院機構南九州病院
第１副地区長	敷　根　富貴子	整形外科松元病院
第２副地区長	花牟禮　　稔	霧島桜ヶ丘病院
書　　記	西　郷　涼　子	国立病院機構南九州病院
会　　計	原　田　尚　子	国立病院機構南九州病院

教育委員	
氏　名	所　　属
的　場　浩　司	国立病院機構南九州病院
片野坂　幸　子	加治木記念病院
石　本　もも代	伊佐市医師会立准看護学校
宇　都　未　望	寺田病院
平　野　里　美	霧島市立医師会医療センター
馬場園　由　美	国分生協病院

地域ケアサービス委員	
氏　名	所　　属
松　下　順　子	大口病院
西　　里　香	県立北薩病院
井手元　輝　美	ザ王病院
中　田　潮　美	県立姶良病院
野　添　可奈子	霧島市役所
井　料　広　子	霧島杉安病院

医療安全ネットワーク委員	
氏　名	所　　属
恒　吉　淳　子	国立病院機構南九州病院
東　　鶴　江	霧島市立医師会医療センター

大隅地区

大隅地区地区長　伊比禮まり子

地区長として、あっという間の1年でした。会員の皆様、各地域関係機関の方々のご協力のもと、地区事業が計画通り、実施できましたことに心より感謝申し上げます。平成28年度大隅地区では、日本看護協会のモデル事業「子どもと子育て世代包括ケア推進のためのモデル事業」を県全体の開催に引き続き、大隅地区でも開催いたしました。

子どもと子育て世代が、地域の中で安心して子育てができるように切れ目のない支援体制を構築するために、地域の看護職が出来る事は何か、どのように連携していくか各施設、各立場から大隅地域の実情について話し合い、地域の課題について抽出を行いました。

平成29年度も地区研修事業として開催します。

県の委託事業として、新人看護職員多施設合同研修（OST研修）は、教育研修会を年5回開催、看護師、准看護師、助産師、保健師の参加もあり、看護の質の向上や施設を超えて、新人看護師同士のネットワークの構築に繋がっています。平成29年度も引き続き開催します。又、今年度、新規事業として看護管理者の交流会を開催します。地域包括ケアシステムの構築を進めるにあたって、地域の他機関や他職種によるチーム連携による協働が重要となります。地域の人々の期待に応えられますように、地区事業を通じて、活動を推進していきたいと思います。地区会員の皆様の、ご指導とご支援を宜しくお願いいたします。

■平成 29 年度　役員

役　　員	氏　名	所　　属
地　区　長	伊比禮　まり子	肝属郡医師会立病院
第１副地区長	加治木　ゆかり	徳田脳神経外科病院
第２副地区長	神　園　瑞　代	垂水中央病院
書　　記	宮　田　和　世	肝属郡医師会立病院
会　　計	若　松　良　子	肝属郡医師会立病院

教育委員	
氏　名	所　　属
本　山　真紀子	鹿屋医療センター
横　手　直　子	恒心会おぐら病院
吉　田　小百合	昭南病院
福　元　由　美	星塚敬愛園
木　場　　大	徳田脳神経外科病院
前　田　真由佳	垂水市役所
辻　　みゆき	曽於医師会立病院
谷　山　正　子	池田病院

地域ケアサービス委員	
氏　名	所　　属
伊　達　由　和	大隅鹿屋病院
又　野　貞　代	個人会員
柿　元　良　一	恒心会おぐら病院
安　楽　砂　織	曽於医師会立有明病院
小　脇　沙　織	志布志保健所
柿　元　淳　子	垂水中央病院
池　田　里　香	池田病院
川　内　裕　子	肝属郡医師会立病院

医療安全ネットワーク	
氏　名	所　　属
原　　小百合	鹿屋医療センター
楠　園　美寿子	肝属郡医師会立病院

新人看護職員研修チーム	
氏　名	所　　属
濱　田　由　美	垂水中央病院
近　間　眞由美	春陽会中央病院

大島地区

大島地区地区長　榊　愛香

この度、大島地区地区長をお引き受けすることになりました。大島地区は6月10日（土）中重敬子県看護協会副会長をお迎えし、多くの会員の皆さまのご出席のもと平成29年度地区集会を開催しました。

今年度は1. 地区組織の充実強化と会員拡大、看護職間の交流　2. 教育研修の充実による看護の質の向上　3. 地域包括ケアシステム構築に向けた看護職の役割認識と関係機関や多職種との連携　4. 地域活動参画による社会貢献の4つを活動目標とし、様々な事業を計画しています。その中で新たに、「新人看護職員卒後研修多施設合同研修」や施設訪問、大島群区ブロックでの施設間の意見交換会の開催にも取り組んで参ります。療養の場が「病院から在宅へ」移行する中、地域包括ケアシステムの構築が進められており、地区事業をとおして、日本看護協会が掲げる「看護の将来ビジョン―いのち・暮らし・尊厳を守り支える看護」を推進していきたいと思います。地域の看護職がつながり、地域で暮らす人々を支え合うために、今後とも皆さまのご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

■平成 29 年度　役員

役　　員	氏　名	所　　属
地　区　長	榊　愛　香	県立大島病院
第１副地区長	徳　村　芳　子	奄美中央病院
第２副地区長	鵜　木　すえ子	名瀬保健所
書　　記	泉　弘　子	県立大島病院
会　　計	重　井　香　里	県立大島病院
医療安全情報ネットワーク	鶴　田　恵	県立大島病院
大島郡区ブロック代表	栄　明　美	宮上病院

教育委員	
氏　名	所　　属
田　中　浩　二	奄美和光園
下　田　なおみ	奄美中央病院
森　田　秀　樹	大島郡医師会病院
赤　塚　美　帆	県立大島病院
野　村　理　恵	名瀬徳洲会病院
中　村　美千代	奄美病院

地域ケアサービス委員	
氏　名	所　　属
良　山　朋　子	奄美中央病院
松　本　恵里香	県立大島病院
宮　山　尚　子	大島郡医師会病院
藤　山　レ　イ	名瀬徳洲会病院
長　井　安　代	奄美看護福祉専門学校
牧　原　悦　子	奄美和光園

医療安全情報ネットワーク委員	
氏　名	所　　属
鶴　田　　恵	県立大島病院
森　　晃　代	大島郡医師会病院

ナースセンターだより

Vol.121

訪問看護研修

～「訪問看護研修」始まりました～

29年度は入門研修19名，養成研修28名，管理研修19名の申し込みがありました。

管理者研修は7月7日スタートしました。

入門研修生の就業状況は60％が病院・クリニック関係，受講動機は①以前から訪問看護に興味があった②在宅での看護の必要性が高まる中で，訪問看護の役割・知識を学びたい③訪問看護師になりたいなど。

養成研修生の就業状況は54％が訪問看護ステーション勤務であるが，その60％が1年未満の訪問看護歴。

受講動機は①訪問看護の経験はあるがもっとスキルアップしたいや基礎から学びを深めたい②昨年，入門研修を受講。意欲が出た。もっと必要とする知識・技術を学びたい③訪問看護ステーションへ勤務予定や起業予定など。

受講動機は様々ですが，講師や受講生仲間に刺激を受けながら，訪問看護への理解をより深め，その醍醐味を感じ，ステップアップできる時間になれば幸いです。

ワーク・ライフ・バランス（WLB）推進ワークショップ報告会

平成27年度取組み施設による報告や講演会を開催します。詳細は、今後ご案内します。
多くの施設の皆様の参加をお待ちしています。

日時：平成29年11月15日（水）
13:20～（予定）

ふれあい看護体験

今年度も看護週間に合わせてふれあい看護体験（６施設、５５名参加）を実施しました。夏休み期間（7/22～8/27、県内５２施設）で実施予定です。実りある体験ができればと思っております。

技術支援セミナー

★日時：毎月第4金曜日　9：20～11：30
★場所：鹿児島大学病院

再就業に向け不安な方を対象に、採血・点滴の技術確認を行っています。

受講を希望される方は、ナースセンターへ電話で申し込んで下さい。

定員６名です。お早めに！

学校訪問

看護学校を訪問し、卒業年次の学生へナースセンターや届出制度等について紹介しています。６月末までに８校を訪問しました。

今後の日程

☆尚志館高等学校　7/19
☆奄美看護福祉専門学校　7/20
☆川内市医師会立川内看護専門学校　10/12
☆鹿児島中央看護専門学校　11/17
☆久木田学園看護専門学校　11/27
☆タラ看護専門学校　11/6
☆加治木看護専門学校　12/7

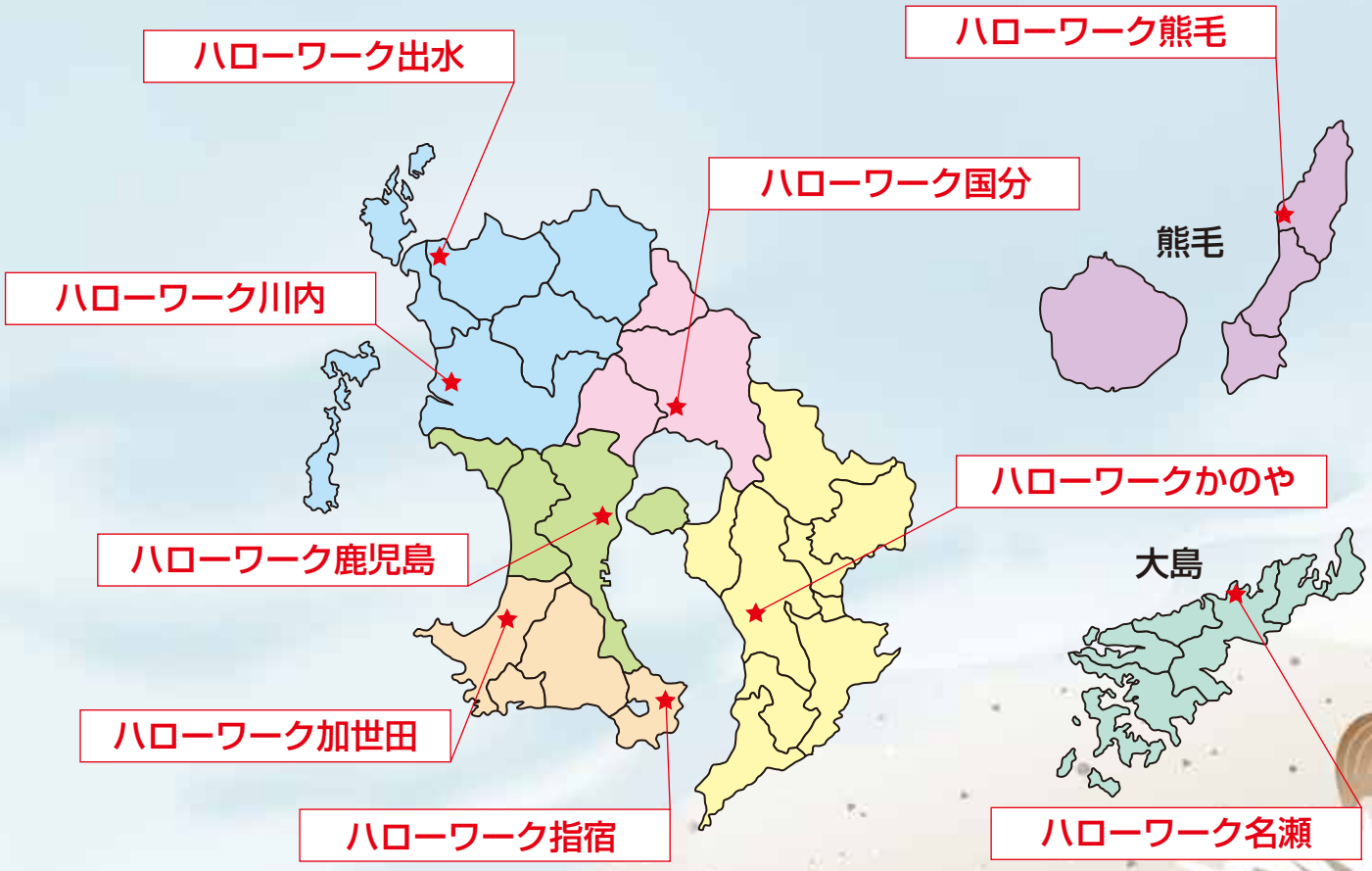
学生の声

・ナースセンターについて初めて知った。
・困った時の相談もできるので心強いと思った。
・職場選びのポイント等を教えていただいたので就職活動に活かしたい。

ハローワーク出前

県内のハローワークにおいて出前就業相談を行なっています。
看護職の就業相談、求人施設の相談、進路相談にも対応しています。
看護経験のある看護職が相談に応じますので、お気軽にご相談下さい。

地　　区	ハローワーク名	相　談　日	日　　時
南　　薩	ハローワーク指　宿	第 3 火 曜 日 13：30 ～ 16：30	7/18、8/22、9/19
	ハローワーク加世田	第 2 水 曜 日 13：30 ～ 16：30	7/12、8/9、9/13
川　　薩	ハローワーク川　内	第 2 火 曜 日 13：30 ～ 16：30	7/18、8/15、9/19
出　　水	ハローワーク出　水	第 3 火 曜 日 13：30 ～ 16：30	7/18、8/22、9/19
姶良・伊佐	ハローワーク国　分	第 2 火 曜 日 13：30 ～ 16：30	7/10、8/14、9/11
大　　隅	ハローワークかのや	第 3 火 曜 日 8：45 ～ 11：45	7/20、8/17、9/21
熊　　毛	ハローワーク熊　毛	6 ヵ 月 に 1 回（随 時）	
大　　島	ハローワーク名　瀬	第 3 火 曜 日 14：00 ～ 17：00	7/18、8/15、9/19
鹿 児 島	ハローワーク鹿児島	第 4 木 曜 日 13：30 ～ 15：30	7/27、8/24、9/28



再就業支援セミナー（鹿児島地区）

ブランクのある看護職の復職支援として、第１回目のセミナーを看護研修会館視聴覚室で開催します。

７月11日（火）～19日（水）のうち３日間、講義では最新の看護の知識を学び、施設のご協力のもと県内の病院や福祉施設、訪問看護ステーションにおいて１日間見学研修を行います。

鹿児島地区の第２回目は10月に開催します。
10月17日（火）～25日（水）のうち３日間。
申込期間は８月28日（月）～９月15日（金）

詳細はナースセンターにお問合せ下さい。
http://k-kango.jp/nurse/sai/

受講生の声

（平成28年度受講生）

仕事に復帰しようと思いセミナーを受講しました。『訪問看護ステーションかごしま』で実習したのですが、訪問看護を全く考えていなかった私にとって、実習で訪問看護のイメージが少し変わりました。

後日、アルバイト的な仕事はないか紹介所に伺ったら、訪問看護をしてみないかと声をかけられ、訪問もありかも‥と思った私は、再就職先として訪問看護を選びました。今では、訪問看護をして良かったと心から思っています。

本年度開催

地域再就業支援セミナー（in 川薩）

就業していない、または再就業１年未満の看護職を対象にした再就業支援セミナーを、川内市医師会立川内看護専門学校の御協力を頂き、川薩地区で開催することとなりました。ご参加お待ちしております。

日　　時　：８月22日（火）　８月23日（水）　８月24日（木）
開催場所　：川内市医師会立川内看護専門学校
申込期間　：平成29年７月10日（月）～平成29年８月10日（木）
申し込み先　：川内市医師会立川内看護専門学校（tel 0996-27-0242）
または鹿児島県ナースセンター（tel 099-256-8025）

とどけるん【届出状況】

2015年10月～2017年５月までの届出状況
全国51,078名　鹿児島県1,010名

【eナースセンター求人・求職登録状況】

	４月	５月
求人数	659	607
求職者数	408	421
就業者数	38	49

鹿児島県ナースセンター
〔看護師等無料職業紹介所　４６-ム-０１０００２〕
◆相談窓口◆　※予約不要
相談日：月～土　午前９：００～１２：００
午後１：００～　４：００
（土曜日は３：００まで）
〒890-0064 鹿児島市鴨池新町21-5
TEL：099-256-8025
FAX：099-256-8079
mail：kagoshima@nurse-center.net
ホームページ　http：//k-kango.jp/

理事会報告

第１回　理事会
日時：平成 29 年 5 月 13 日（土）9：30 ～ 11：30
17 名出席

◆ **協議事項**

1　基本方針
　1）　平成 29 年度事業計画及び重点事業について
　2）　平成 29 年度常任委員会・特別委員会　諮問事項（案）
2　事業推進に関する事項
　1）　平成 29 年度都道府県看護協会地区支部等における高齢者及び認知症者支援のための看護職連携構築モデル委託事業者の応募について
　2）　平成 29 年度医療介護総合確保基金事業について
3　管理的事項
　1）　管理事項
　　(1) 平成 28 年度年度決算報告及び監査報告について
　　(2) 平成 29 年度通常総会及びプログラム並びに役割分担について
　　(3) ３職能合同集会について
　　(4) 地区集会出席予定について
　3）　会員支援関係

★ **報告事項**

1　事業推進に関する事項
　1）　教育事業について
　2）　看護の日記念行事について
2　管理的事項
　1）　管理事項
　　(1)　平成 29 年度収支予算報告書について
　　(2)　議事録（理事会）
　2）　会員支援関係
　　・平成 29 年度会員加入状況

3　その他
　(1)　日本看護協会理事会報告（口答報告）
　(2)　職能委員会報告（口頭報告）
　(3)　地区報告（口頭報告）
　(4)　委員会報告（書面報告）
　(5)　地区長情報交換会報告（口頭報告）
　(6)　他団体会議報告（書面報告）
　(7)　出張報告（県外）（書面報告）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第２回　理事会
日時：平成 29 年　5 月 20 日（土）15：40 ～ 16：20
17 名出席

◆ **協議事項**

1　役員の選定について
2　会長代行及び専務理事代行の優先順位について

表紙のリニューアルを考えています。
スタッフ紹介、白衣自慢などなど、看護師で表紙を飾ってみませんか？病院単位でも、病棟単位でも OK です。応募は看護協会広報委員まで。

看護専門職として社会に貢献しよう　会員の増加と福祉の向上のため活動しよう

編集後記

平成 29 年度、広報委員のメンバーが変わりました。今年度も新しい企画を考えていきたいと思いますのでご意見、ご要望をお寄せください。

よろしくお願いします。
広報委員一同

公益社団法人
鹿児島県看護協会
Kagoshima Nursing Association
鹿児島市鴨池新町21-5
TEL.099-256-8081　FAX.099-256-8079
URL　http://k-kango.jp
E-mail　kakankyo@orange.ocn.ne.jp